

2022 年度第 3 回執行理事会議事録

日程：2022 年 10 月 8 日（土）13:00-17:30【WEB 会議】

出席：岡田 誠，杉田律子，星 博幸，中澤 努，緒方信一，保坂（内尾）優子，内野隆之，加藤猛士，狩野彰宏，亀高正男，小宮 剛，高嶋礼詩（16 時から），辻森 樹，松田達生，山口飛鳥（16 時から）

監事：山本正司，岩部良子

欠席：坂口有人，尾上哲治，矢部 淳

事務局 澤木

*定足数（過半数：10）に対し，執行理事 15 名の出席

*前回 22-2 議事録案は，本執行理事会にて承認された。

報告事項

1. 全体的報告

- ・ 大型研究について（小宮）：マスタープランの後継プログラム（未来の学術振興構想）の提案に向けてのスケジュールなどの報告があった（10 月 21 日意向調査締切，12 月申請締切）。「未来の学術振興構想」では 20～30 年後を見据えた長期的スパンでの研究構想を提案する点，日本学術会議において提案内容をいくつかのカテゴリーに束ねるという点，研究施設が提案項目加わった点，予算規模が 2000 億円まで可能になった点，数物系，生命系，人文社会系およびそれらの複合の 4 つの分野を選択する点，申請代表者に若手研究者が可能となった点が従来とは異なる。地質学会でもマスタープラン 2020「地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築（地質学会提案）」を，岡田会長名で再度提案することを確認した。提案にあたり，具体的な受け皿機関などを検討する必要がある，その点を現在模索している。

2. 運営財政部会（亀高・加藤）

1) 総務委員会

<共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等>

- ・ 日本地質汚染審査機構第 5 回水循環シンポジウム（10/22，於 茨城県潮来ホテル）への後援依頼があり，承諾した。
- ・ 第 60 回アイソトープ・放射線研究発表会（23/7 月，於 東京都内 or オンライン開催）への後援依頼があり，承諾した。
- ・ 第 32 回社会地質学シンポジウム（11/26-26，於 日本大学文理学部）への後援依頼があり，承諾した。
- ・ 石油技術協会令和 4 年秋季講演会（11/1，於 東京大学小柴ホール）への協賛依頼があり，承諾した。
- ・ 山田科学振興財団 2023 年度研究援助候補者推薦依頼があった（23/2/28 締切，地質学会推薦枠：3 件，学会締切 23/2/3 で広報）【→ニュース誌 10 月号，geo-flash 掲載】
- ・ 第 64 回藤原賞受賞候補者推薦依頼があった（12/15 締切，学会締切 11/30）【→ニュース誌 10 月号，geo-flash 掲載】
- ・ 地学団体研究会より声明文「福島第一原発の汚染水海洋放出に反対し，汚染水発生量の抜本的な削減を求める」（22/9/1 付）が届いた。
- ・ 新潟大学旭町学術資料展示館企画展示「ジオパークの大放散虫」展（日本地質学会後援，2022/7/20-8/28

開催) 実施報告があった。

- ・ 山梨県富士山科学研究所より, 国際シンポジウム 2022 富士山地域 DX～山岳観光と次世代通信～」(11/20) の開催案内があった。【→ニュース誌 10 月号, geo-flash 掲載】

<会員>

1. 今月の入会者(6名)

正会員 (5名):

松本なゆた, 石井富夫, 溝口 豊, 小倉大輔, 富島千晴

正会員 (院生割) (1名):

遠藤悠一

2. 今月の退会者 (無し)

3. 今月の逝去者(正会員 3名)

近藤浩文 (逝去日: 2022 年 5 月 19 日), 榎倉紀久 (逝去日: 7 月 26 日), 鈴木養身 (逝去日: 9 月 3 日)

4. 2022 年 9 月末会員数

賛助: 27, 名誉: 39, 正会員: 3237 [うち正: 3115, 院割: 115, 学部割: 7 合計 3303 (昨年比-60)]

<会計>

- ・ 特になし。

<その他>

- ・ 会員システムクラウド化の進捗状況: web 会員画面 (案) を紹介した。会員が操作する会員情報検索画面のバグについて修正作業中。

3. 広報部会 (内尾・松田)

1) 広報委員会 (内尾)

- ・ 学会ホームページ改定に向けて検討を開始した。詳細なスケジュール, さらに具体的なイメージ・サイトの内容, 構成, 予算を検討し, 23 年 1 月頃を目安に仕様書を整え, 複数業者に見積を依頼する予定。現行サイト内の内容の整理も必要であり, 執行理事会による確認も予定。優先すべきはトップページ, ニュース, 入会案内など。国内外の学会の例も参考にする。英語ページの改訂も必要。

4. 学術研究部会 (辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会 (高嶋・山口)

2022 早稲田大会

- ・ 9/10-11 ポスターセッション, 地質学露頭紹介は無事終了。フラッシュトークで音声・画像トラブル (発表者側の問題) はあったが, 時間に余裕があったため特に問題にならなかった。
- ・ 早稲田大会の反省会および京都大会への引継ぎを岡田会長, 星副会長, 行事委員会および早稲田・京都大会 LOC 代表者で実施し, 反省点をまとめた。また, 今後の大会で改善してほしい点を理事・行事委員から意見をメーリングリストにて募集することにした。

京都大会

- ・ 市民講演会（日時：2023年9月17日（日）13:00～15:00）は、講演者2名が決定した。「歴史記録と地質からみた京都の地震（仮）」（産総研：小松原琢氏）、「微小地震から見た京都周辺の地震活動と地震を起こす力の向き（仮）」（京都大学：飯尾能久氏）
- ・ 巡検案内書：里口保文編集委員長を中心に、メーリングリストを立ち上げ、10/1 付著者へ執筆依頼および執筆要領を送付した。原稿締め切りは2023年1月31日に決定。
- ・ 巡検：下記の通りで進行中。
 - A「京都盆地-奈良盆地断層帯とその周辺の第四系」案内者：小松原琢（産総研）
 - B「山陰海岸ジオパーク地域 兵庫県新温泉町～香美町周辺に分布する新第三紀北但層群とそのジオサイト」案内者：松原典孝（兵庫県大）・羽地俊樹（産総研）・郡山鈴夏（フォッサマグナミュージアム）佐野恭平（兵庫県大）
 - C瀬戸内区中新統：綴喜層群と鮎河層群」案内者：入月俊明（島根大）・栗原行人（三重大）
 - D「後期白亜紀・琵琶湖コールドロン域西部に分布する花崗岩類と岩脈」案内者：多賀 優（龍谷大）・貴治康夫（佛教大）・杉井完治（京都市消防局）
 - E「但馬地域の舞鶴帯南帯」案内者：木村光佑（大工大）・隅田祥光（長崎大）・早坂康隆（広島大）
 - F「超丹波帯と丹波帯」案内者：菅森義晃（鳥取大）・桑原希世子（大工大）・竹村静夫（兵教大）
 - G「アウトリーチ巡検 淀川の氾濫と河川改修」案内者：三田村宗樹（大工大）
 - W1「ワークショップ 堆積学の水理実験・理論講習会」案内者：成瀬 元（京都大）
 - W2「ワークショップ GISをつかってみよう」案内者：根本達也（大工大）

ショートコース

- ・ 第6回（22/12/18開催予定）と今後の予定について（→審議事項へ）

その他

- ・ JpGU2023年大会学協会プログラム委員として、正：上澤真平会員（電中研，火山部会行事委員），副：松崎賢史会員（AORI，海洋地質部会行事委員）を選出した。

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

特になし

3) 国際交流委員会（辻森）

- ・ IGC37th および大韓地質学会 MOU 更新の対応について（→審議事項へ）

4) 地質標準化委員会（内野）

特になし

5. 編集出版部会（狩野・小宮）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1) 編集状況報告（2022年10月5日現在）

- ・ 2022年投稿論文：61 [内訳] 論説30（和文27，英文3），総説7（和文7），ノート4（和文4），レター7（和文6，英1），報告3（和文2，英文1），フォト1（和文1），巡検案内書9

査読中：29，受理済み：15

- ・ 128巻：公開済み21，入稿・校正中13

(2) 地質学雑誌への論文投稿促進策として、129年学術大会発表の中から「レター」への投稿を依頼する発

表の推薦を編集委員に依頼し、6件の推薦があった。今年度表彰者に地雑または Island Arc への投稿を依頼している。

(3) 特集号の冊子体作成について (→審議事項へ)

2) アイランドアーク編集委員会 (狩野)

(1) 編集状況報告

出版状況は、9月までに21編公表されている。2022年投稿数49件で昨年レベルに近づいている。2022年は24編受理、16編Reject、I.F.に貢献した論文の紹介があった。進行中の特集号3つについて、2つがまもなく完成予定。新しい特集号企画を募集している。

3) 企画出版委員会 (松田)

特になし

6. 社会貢献部会 (坂口・矢部・内野)

1) 地学教育委員会 (坂口)

特になし

2) 地質技術者教育委員会 (坂口)

- ・ 「学生のための地質系業界説明会」開催報告 (亀高): 9/5 対面では、参加企業団体は24。学生参加54名、総訪問数202、20大学。9/16 オンラインでは、31企業団体、学生41名参加、総訪問数198、があった。
- ・ JABEE 宣伝ポスターの配布が終了。全国1,238の高等学校へ配布した。

3) 生涯教育委員会 (矢部)

特になし

4) 地震火山地質こどもサマースクール (星)

特になし

4) 地質の日 (矢部)

特になし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネジメント委員会 (中澤)

特になし

2) 若手育成事業検討WG (内野)

- ・ 日本地質学会研究奨励金 令和5年度募集要項、申請書式、選考委員について (→審議事項へ)

3) 表彰制度検討WG (中澤)

- ・ 2023年度各賞の募集記事 (ニュース誌9月号) に各賞の説明を掲載した。会員個人からの推薦も可能である旨を強調して広報した。

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会 (矢部)

- ・ 市民対象オンラインシンポジウム「ジオパーク地域に伝わる伝承と地質学」について、日程は、2023年1月28日(土)10:00-14:25に決まった。詳細は引き続き検討中。

2) 地学オリンピック支援委員会 (坂口)

特になし

3) 支部長連絡会議（杉田，中澤代理）

特になし

4) 地質災害委員会（松田）

- ・ 本年9月の台風14号災害関連情報を関東支部の協力を頂きホームページに掲載した。

5) 名誉会員推薦委員会（星）

- ・ 2023年度名誉会員推薦委員会委員の選定について、階層別委員を11月執行理事会にて提示予定。理事会選出委員は12月理事会で決定。ダイバーシティも考慮して検討したい。

6) 各賞選考委員会（中澤）

- ・ 2023年度各賞の募集を開始した（ニュース誌9月号掲載）

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）

- ・ 9/25委員会報告：2022早稲田大会において、ECS（Early Career Scientist）ロゴ付与申請を学生発表賞へのエントリーと間違えるケースがあった。ECSに関して、学生発表賞の創設を希望する意見あり。大会サイトプログラム上で検索できる「求職中ロゴ」の創設の希望があった。ECSロゴについても大会サイト上で検索できると良い。学会各種委員会のジェンダー構成については議論を継続する。

8) 連携事業委員会（中澤）

特になし

9) 法務委員会（中澤）

特になし

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会（委員長 小山内康人）

特になし

2) 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）

特になし

10. その他

1) 「地質情報展2023いわて」の開催概要について（中澤）

2023年3月10日（金）から12日（日），岩手県立博物館にて開催予定。試行的に学術大会とは別の場所で開催する。主催は産総研地質調査総合センター，産総研東北センター，日本地質学会，岩手県立博物館。期間中，惑星地球フォトコン入賞作品を大型ディスプレイサイネージにてデジタル展示予定。

審議事項

1. IGC2024 および大韓地質学会 MOU 更新の対応について

IGC2024 へのサポートレターを9月16日付で撤回した（LOC宛に文書を送付した）。撤回に至った経緯等も明記して IUGS にも文書を共有した。

2. 地質学雑誌特集号の冊子体作成について（小宮）

完全電子化後，特集号については例外として冊子体も作成したいとの要望がある。雑誌電子化の趣旨と経費の問題も鑑みて，具体的に対応可能か検討する。冊子体を作成する場合，従来の論集方式（通常印刷販売）案，全会員配布案，著者の別刷り形式買取などいくつか方法が考えられる。具体的方法と概算費用を次回の執行理

事会までに明示する。

3. 日本地質学会研究奨励金 令和5年度募集要項, 申請書式, 選考委員について (内野)

募集要項と申請書式について確認し, いくつかの要修正箇所を含めさらに検討を進めることにした。募集期間は令和5年1月1日~2月28日。選考委員については基金ワーキンググループメンバーにてスタートすることを確認した。

4. 地質学会若手向けオンラインイベント 企画 (星)

院生理事を中心とする若手会員有志が企業就職を考えている学生向けのイベントを検討しており, 講師依頼については学会から依頼してほしいこと, および学会 ZOOM アカウントを使用したい旨の要請があった。これらについて承認した。イベントの予算化や他学協会との協力などについて理事から意見があり, それらの意見を若手会員有志に伝え, さらに検討してもらうことにした。

5. 第6回ショートコース (22/12/18 開催予定) と今後の予定について (山口)

第6回: 2022年12月18日(日) 「法地質学の最前線(仮)」・「付加体地質学の最前線(仮)」@3時間を予定。

第7回: 2023年4月開催予定。2023年度からの学生会員の参加費値下に伴い, 参加費の改定を提案(会員学生1000円, 一般会員2000円, 非会員学生3000円, 非会員一般5000円)。

以上の提案について承認された。

6. ポスター賞廃止・学生優秀発表賞新設の提案 (山口)

現行の優秀ポスター賞を廃止し, 口頭・ポスターともに審査対象とする「学生優秀発表賞」の新設が提案され, 大筋で承認された。適切かつ公平な評価のための評価方法や審査員の選出について, 意見が出された。細部は継続審議とする。

監事コメント (岩部監事)

- ・ IGC2024に関する問題については, 慎重に議論を進め, かつ会員へ丁寧に説明して頂きたい。
- ・ 学会HPの改定について, 情報を整理して, 必要な情報にたどり着きやすいHPにして頂きたい。
- ・ ショートコースについては, 企業内でも注目されているので期待している。

(山本監事)

- ・ 大韓地質学会とのMOU更新・IGC2024については会員への丁寧な説明が必要。
- ・ 若手提案のオンラインイベントについては事前に予算化されていないものでも, ある程度柔軟に対応し, 積極的に進めて頂きたい。

以上

2022年11月12日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田 誠
署名人 執行理事 中澤 努